八、三宅良一とその交友録から　江川　義雄（廿日市市）
九、絵葉書にみる奥村良筑先生　○寺畑　喜朔（高　岡　市）
奥村　忠（武生市）・長門谷洋治（堺　市）
一〇、医官法眼山脇玄致門人帖　有坂　隆道（関西大学）
一一、阿知和五郎著『近代日本の医学』に紹介された山脇東洋像について　○長門谷洋治（堺市）・坂上俊之（城　陽　市）
一二、斎藤茂吉（「呉秀三先生を憶ふ」昭和七年）にみる「狂」の文字へのおもひについて　小曽戸明子（東　京　都）
一三、オランダ・ライデンの外科医ギルド（一五世紀～一八世紀）とギルド規約（一六八一年）について　石田　純郎（新見女子短大）
一四、アンブロアス・パレと江戸の外科　和田和代史（和田医学史料館）

特別講演〈ジェンナー種痘二〇〇年記念〉
ジェンナーの業績と伝記について　大阪大学名誉教授　加藤　四郎

閉会のことば　……中橋　弥光（長門谷洋治）

例会記録

一月例会　平成八年一月二十日（土）
順天堂大学医学部六号館階段教室
一　個人史研究におけるプライヴァシ問題　―討論して いただくための試論―　岡田　靖雄
一　王行―中国古代医学の枠組み概念　其の二―　家本　誠一

二月例会　平成八年二月二十四日（土）
順天堂大学医学部九号館八番教室
一　室町～江戸初期における灸技術について　―文献上にみる経穴の用い方―　角谷　貞雄
一　三才―中国古代医学の枠組み概念　其の三―　家本　誠一

日本医史学会　医科器械の歴史研究会　三月合同例会　平成八年三月二十三日（土）
一　耳鼻咽喉科診療器械の発展過程について　飯田　収
一　ビデオ供覧「遙かなるアルスターマン　―ウィリアム・ウィリスのこと」　解説　酒井　シヅ

四月例会　平成八年四月二十七日（土）
順天堂大学医学部九号館八番教室
一　オランダ商館長の住友銅吹所見物と饗応・贈答　片桐　一男

一　ハーヴェイ以前の血液循環理論について　藤倉　一郎

五月例会　平成八年五月二十五日（土）
順天堂大学医学部九号館八番教室

一　古記録に見る室町後期の患者たち　水谷惟紗久

一　着想としての内視鏡　多賀須幸男

一　森鷗外作「なかじきり」解釈の試み　―「医」に関する言及をめぐって―　志田　信男

例会抄録

五行―中国古代医学の枠組み概念　其の二―

家本　誠一

五行の出典は書経の洪範である。民生必要の五つの材質を示す。中国古代医学はこれを使ってその内容を整理する枠組みとして活用した。本稿では、その状況を検討する。

五行の医学的定義

素問、蔵気法時論二二に云う。「五行とは金木水火土。更々貴、更々賤、以て死生を知り、以て成敗を決す。而して五蔵の気の間甚の時、死生の期を定むるなり」と。

更々貴、更々賤とは五行の各要素の間に相生相克関係のあることを謂う。死生を知り、成敗を決すとは、病気の予後を判断することである。間甚の時、死生の期を定むとは、病気の経過、転帰を判定することである。

相生相克に依って臓器組織の機能間に促通と抑制という相互関係が成立する。同時に此れは疾病の経過を決める原理となる。これが古代医学の形態学、生理学を特徴づける。

五行の機能

第一に五行は分類の枠組みとなる。天地間の万物は其々の部門に於いて五つに分類されて相互に関連づけられる。ここに成立する表を五行配当表と呼ぶ。その一部を掲げる。

木	東	春	蒼	酸	肝	胆	呼	怒
火	南	夏	赤	苦	心	小腸	笑	喜
土	中	土用	黄	甘	脾	胃	歌	思
金	西	秋	白	辛	肺	大腸	哭	憂
水	北	冬	玄	鹹	腎	膀胱	呻	恐

陰陽を時間的空間的に展開すると五行になる。春、東方に陽気が芽生え、夏、南方に大盛となり、秋、西方に減衰し、冬、北方に収斂する。陰はこの逆の盛衰を示す。青春の樹木は春、太陽の火熱は夏、白金の冷気は秋、玄暗の北海は冬、中原の黄土は土用の象徴である。五行はこの木火土金水との類比によって万物を分類する枠組みとなる。色や味は季節や風土の景観や食物と関連する。人の行動や情意も明より暗へと配列されている。

動植物の成長化収蔵のライフサイクルも此の五行的リズムに同調している。従って人の形態も生理もこの原理に依って